

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 3月15日

【評価実施概要】

事業所番号	1174900439
法人名	有限会社グループホーム上野
事業所名	有限会社グループホーム上野陽だまりの家
所在地	368-0023 埼玉県秩父市大宮5876-1 (電話) 0494-22-3058

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年3月6日

【情報提供票より】(20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 13人, 非常勤 5人, 常勤換算	15.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	500円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.7 歳	最低	66 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	片田医院、関根医院、落合歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームは自然に恵まれた環境にあり、ホームの前庭では飼い猫の世話や日向ぼっこ、鉢植えの手入れや果実の収穫などができるので、利用者が日常的に戸外に出られるように支援をしている。ホーム内の共用の居室は利用者の特技や趣味の活動にも配慮し、利用者が張り合いや喜びのある日々が過せるようテーブルの配置や作品の展示等も工夫した対応となっている。入居者各々が思い思いに過す様子や穏かで生き生きとした表情が伺えた。代表者は職員のストレス軽減の為に別棟に休憩室を設け、職員が交替で休めるようにしたり、管理者や職員の話もよく聞き協働している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題と今後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果で指摘された項目については改善計画シートを作成し、職員間で話し合い、すぐに改善できること、一步一步積み上げながら改善することなど、着実に改善に向けた実行がなされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は一通り管理者が行った後全職員が目を通し意見を出し合って完成させている。外部評価の意義等は職員間で話し合い、日頃のケアの振り返りや見直し等に活用していこうと前向きな姿勢で臨んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>4ヶ月に1回運営推進会議を開催している。地域の介護用品取扱業者などもメンバーに入っており、多方面の視点から積極的な意見をいただき、改善に向けた話し合いが行われている。市の高齢者介護課が郡市地域密着サービス事業者連絡協議会を立ち上げたので、そこにも参加し、市の担当者から意見や指導を受ける機会も作っている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族には利用者の生活の様子を写真等も添えた「身体状況のお知らせ」で報告している。そのお知らせの中に連絡先を設け、御家族からの質問や意見を聞いている。また、玄関に意見箱を設置し、御家族が来訪した時や、運営推進会議で意見や苦情を表出しやすいように雰囲気作りをして話を聞いている。寄せられた意見等は全職員で話し合い運営に反映している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者は地域主催のお祭りや行事等に参加している。事業所で行う納涼祭などには地域の人にも声掛けし、参加してもらっている。また、町内会にも入会しているほか、地域の連絡網にも入っていて、会報等もホームに配布されている。回覧板やお知らせを読んで、廃品回収やふれあい広場にも参加し、地域活動への参加と地域の人々との関わりを積極的に行っている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所としてユニット共通の理念を3項目にして明確に明示している。その1つに「地域交流、家庭的な生活、過去の生活背景を活かした暮らしのお手伝いを致します」とあり、地域密着型サービスとしての役割を目指した理念をつくり上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング時に全員で理念を唱和し、確認し合い、日々利用者に関わる際に理念を具体化していくことを意識して取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	一住民として町内会に入会している。回覧板やお知らせによって廃品回収やふれあい広場に参加したり、お祭りや催し事にも参加している。また、事業所主催の納涼祭には声かけによって大勢の地域の方の参加もあり、地元の人々との関係が築けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は管理者が一通り作成した後、全職員が目を通し意見を出し合って完成させた。前回の改善課題については改善計画シートを作成し、改善に向けた具体案を話し合い実践している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4ヶ月に1回運営推進会議を開催している。参加メンバーには家族代表や町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、介護用品取扱業者がいる。会議では、外部評価結果も報告し、様々な分野の方より意見をいただき、サービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の中に生活保護受給者もいるため、何かにつけて市の担当窓口と相談したり、指導を受けるなどしている。また、秩父郡市地域密着サービス事業者連絡協議会が会場持ち廻りで開催され、市の担当者が出席して話し合いが行われるので、そこでも連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月に1回利用者の暮らしぶりや身体状況の報告の他に、行事の写真も添えて金銭管理について報告している。また、訪問時の声掛で報告したり、電話にて連絡したり説明することもある。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に苦情や意見の窓口を説明、広間には意見箱を設置している。また、来訪時には家族とのコミュニケーションにより意見や要望が出されるが、その都度職員間で話し合い検討して改善に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職の場合は1ヶ月前に申し出てもらい、新しい職員の場合も馴染みの職員と一緒に馴れるまで対応し、不安や不信感を抱かないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修をはじめ全職員を対象に段階に応じた研修を受ける仕組みがあり、その報告の機会も作っている。また、医師会等の主催で夕方から行われる研修には多くの職員が参加、受講している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秩父郡市地域密着型サービス事業者連絡協議会を市の高齢者介護課が立ち上げ、会場持ち回りとなって開催されているので、地域の同業者との交流ができています。また、グループホーム北部連絡協議会にも参加しており、他の施設を見学したり、勉強会や検討会を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前にホームを見学してもらっている。また、利用者と一緒に食事をしたり、行事にも参加してもらい、ホームの雰囲気に馴染んでもらえるよう工夫している。さらに、利用者本人から身体状況と意向を聞き、体験入居も取り入れたり家族に泊まってもらうなど徐々に馴染んでもらうよう配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常生活や職歴、生活歴に配慮しつつ場面作りをし、そこで人生の先輩として利用者から教えてもらったり、学んだりしている。職員と利用者が共に生活する場として、喜怒哀楽を共有し、助け合う関係に重点を置いた支援がなされている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者本人から希望を聞いたり、日常の声掛けや行動、表情からも思いや意向を把握し、家族の要望も聞きながら本人の視点に立った話し合いや検討をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>サービス担当者会議を開催し、本人や家族の意向に添いながら医師や看護師の意見も参考にして十分な話し合いを行って介護計画を作成している。家族にも検討してもらい、その後に要望等があった時は再度検討し直し、利用者本位の納得したケアプランを作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>設定した期間ごとや状態に変化のあった時に、利用者や御家族、医療関係者の意見を聞いた上でユニット会議で職員が意見を出し合い、現状に即した介護計画の見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況や意向に応じ通院の送迎支援を行っている。また、利用者や家族の希望で外出や外泊できる体制もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の他に入居前のかかりつけ医の受診の希望があれば受診出来る。また、主治医と連携し、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今年に入って看取りの経験をしている。今後もその都度早めに利用者や御家族の意向を聞き、全職員で話し合い、医療機関と連携をとりながら支援する体制がある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの尊厳を守りながらさりげない対応と、言葉かけにも配慮した支援がなされている。また、申し送り等はプライバシーに配慮し、居室番号で話し合いをしている。記録についてもきちんと管理ができています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に配慮しながら利用者一人ひとりのペースに合わせ、見守りながら希望に添った支援がなされている。また、共用空間などもその日が張り合いのある暮らしとなるよう工夫し、柔軟な支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立やおやつは季節に合ったものや利用者の希望を入れ職員が交代で作成し、利用者にも力量に応じ手伝ってもらいながら準備・後片付けをしている。また年に数回は外食もしている。職員が利用者と一緒にする食事については前回の評価結果を改善し週1回するようにした。		職員のローテーションに考慮しながら職員が全員でなくても交替で毎回同じテーブルの中に入り、楽しみながら食事が出来るよう更なる取り組みに期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴支援は日曜以外の毎日、午前と午後に実施している。一応順番は決まっているが、その日の体調で入浴を嫌がる利用者には声掛けし、無理強いしないよう配慮しながら後日に入浴してもらおうなど柔軟な支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	御家族からの情報や利用者本人の生活歴、また日々の声掛けの様子から、利用者一人ひとりの得意とするものや楽しみごとを把握し、それらを日々の生活に取り入れ、その人に合った場面づくりをし、利用者が各々張り合いのある暮らしが出来ている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候やその日の身体状況に合わせ、近隣や庭の散歩をはじめ、食材の買出しや作物の収穫など日常的な外出支援をしている。また、地域の行事に参加したり、外食、買物などは希望にそって外出支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設の庭の扉は時間帯で開放し、ホーム内の1Fと2F間のエレベーターは行き来が自由である。玄関は夜間のみ鍵をかけている。日中は職員の見守りで玄関先の庭に出て気晴らしのできるよう支援をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の指導のもとに、地域主催の防火訓練に参加し、避難場所の確認や地域の協力が得られるよう働きかけをしている。ホーム内の緊急連絡網はできているが災害を想定した独自の訓練は行っていない。		消防署や地域の方の協力を得ながら定期的に職員と利用者が一緒になって防災訓練を繰り返し実施することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はバランスを考え職員が作成している。利用者の身体の状況や好みによって食べやすくしたり、メニューを変えて出している。食事の摂取量と水分摂取量はその都度記録し、職員間で情報が共有できるようにしてある。		献立については保健センターなどの栄養士にカロリー計算なども含め点検してもらうことにより、職員自身の確認にもなるので、定期的に見て頂くことを望みたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所はオープンキッチンになっているため、利用者とのコミュニケーションも取りやすく、音や匂いで生活を感じることができる。共用空間には写真や利用者の手作り品、花などが飾られ、利用者が居心地よく暮しやすいようになっている。また、趣味や特技を持つ利用者にも配慮して、椅子やテーブルを設置するなど工夫した空間作りをしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の大切なものや希望の品物を持ち込み、手芸品なども飾ったりしてその人の生活スタイルに配慮した居室となっている。また、寒中で寒がりの人には夜だけ窓ガラスにパネルを貼るなど、その人に合わせた居室作りがなされている。		